資料2

向陽ヶ丘病院について

250304

目　次

１　斜網地区の人口推計

２　病院の概要

①　病院の概要

②　職員の配置状況（再任用職員を含む）

３　病院の現状

①　患者数・病床利用率

②　患者数と収益の状況（入院）

③　患者数と収益の状況（外来）

④　精神科救急医療及び認知症専門医療

⑤　児童・思春期精神科医療

⑥　精神科デイケア・訪問看護

⑦　地域移行

⑧　受療動向

⑨　各経営指標

４　年間事業実績の推移

５　向陽ヶ丘病院の経営上の課題と方向性（案）

６　病院の今後の方向性

７　病院の今後の方向性（具体的検討案）

【病院の役割・機能の最適化】

①　精神科救急・認知症専門医療の機能維持

②　児童・思春期精神科医療の機能維持

③　病床数の適正化及び職員の適正配置

④　オンライン診療の導入

【地域連携】

⑤　関係機関との連携強化

【医療従事者の確保】

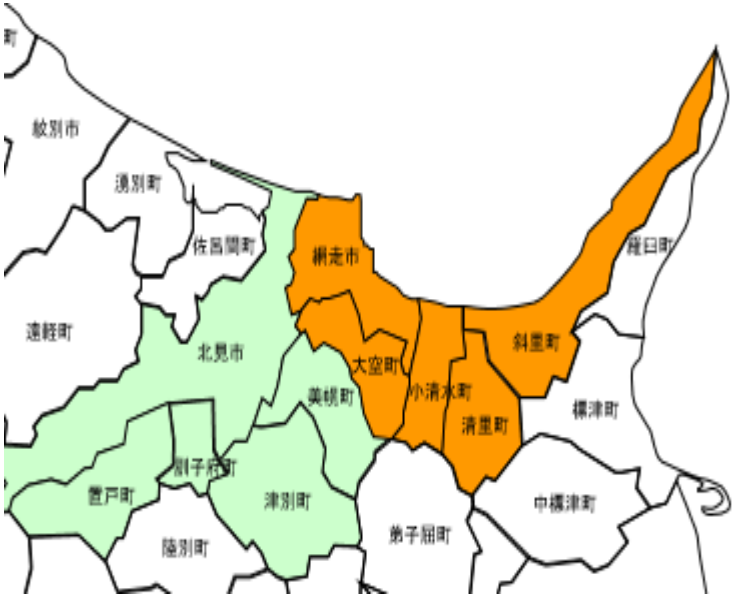
⑥　医育大学との連携による医師確保

８　病院の今後の方向性（まとめ）

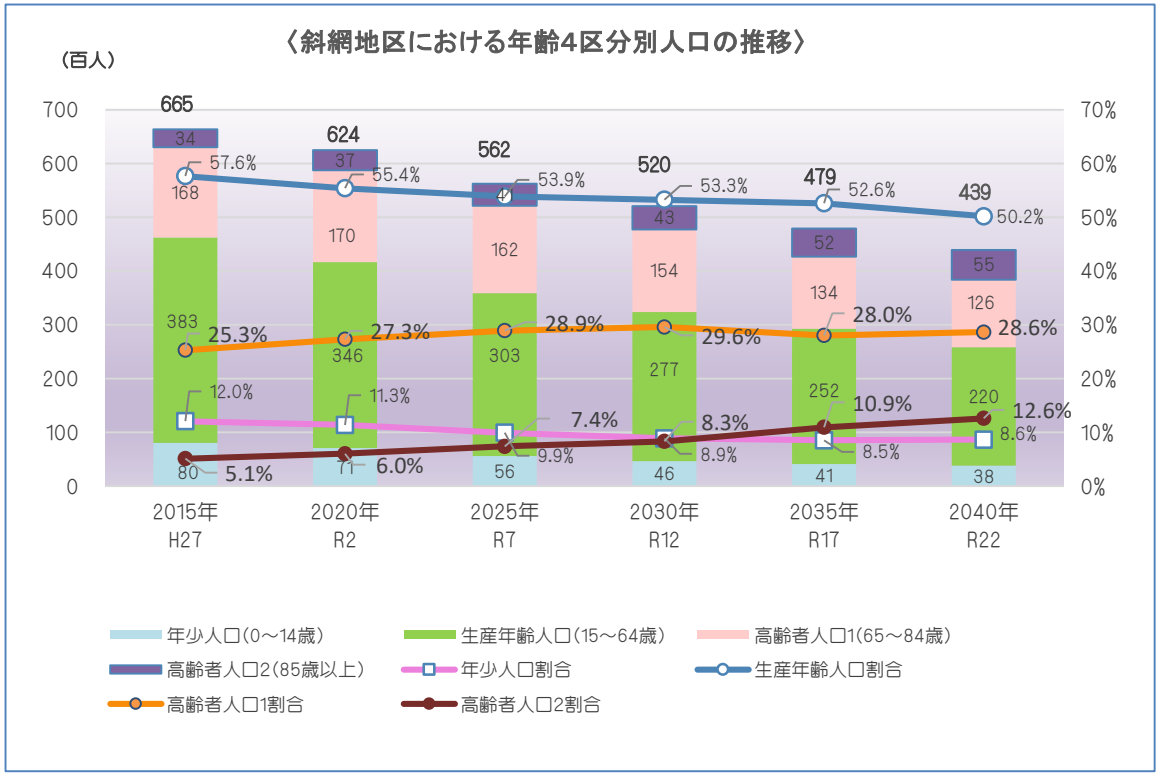
1　斜網地区の人口推計

○　国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、北網圏域の一部である斜網地区（網走市・大空町・小清水町・清里町・斜里町）は、今後も減少減が見込まれる。

○　年齢区分別では、2040年には総人口における高齢者人口が約4割を占め、精神障がい者の高齢化の進展に伴う精神・身体合併症への対応や人材不足による医療従事者の確保が課題となってくる。



※■斜網地区　■＋■北網圏域



（出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」）

2　病院の概要

（令和６年（2024年）４月１日現在）

■所　在　地	網走市向陽ヶ丘１丁目５番１号
■病　床　数	許可：精神 105 床 （３階病棟（開放・閉鎖）56 床、４階病棟（閉鎖）49 床）
■職　員　数	計 79 名（医師５、看護師 50、医療技術者等 10、精神保健福祉士・公認心理師等 5、事務９）
■診療科目	精神科、心療内科
■指定医療機関等	精神科応急入院指定病院、精神科救急医療システム指定病院 認知症疾患医療センター

年　月	沿　革
S29.４	・向陽ヶ丘病院開設（病床数 90 床）
S45.４	・旧病院新築（病床数 200 床）
H３.３	・応急入院指定病院の指定
H８.３	・デイケア施設完成
H８.７	・精神科デイケア施設基準の届出
H11.８	・北海道精神科救急医療システム事業病院の指定
H15.11	・児童発達外来サテライト診療の実施
H16.４	・医療保護入院等診察料の施設基準の届出
H24.３	・許可病床数 200 床→146 床に変更
H26.４	・認知症疾患医療センターの指定
H28.６	・新病院（現庁舎）運用開始（許可病床 105 床）
H29.４	・地域連携室設置
H31.３	・心療内科標榜（診療科目：精神科、心療内科）
Ｒ２.６	・復職支援プログラム（精神科デイケア）実施
Ｒ５.４	・認知症学会教育施設に認定
Ｒ６.12	・アルコール依存症専門医療機関に選定

※向陽ヶ丘病院の外観

2　病院の概要②（職員の配置状況（再任用職員を含む））

【職員の配置状況】（人数：常勤換算）

※非常勤医師、会計年度任用職員は含まない

各年度４月１日現在		総計	医師	看護師	保健師	薬剤師	栄養士	診療放射線技師	臨床検査技師	作業療法士	精神保健福祉士	公認心理師	事務職員
R1	定数 A	86	6	56	1	2	1	2	2	2	2	3	9
	現員数 B	81	5	54	1	2	1	3	2	2	0	3	8
	欠員（B-A）	▲ 5	▲ 1	▲ 2	0	0	0	1	0	0	▲ 2	0	▲ 1
R2	定数 A	86	6	56	1	2	1	2	2	3	3	1	9
	現員数 B	85	5	56	1	1	1	3	2	3	3	1	9
	欠員（B-A）	▲ 1	▲ 1	0	0	▲ 1	0	1	0	0	0	0	0
R3	定数 A	85	6	55	1	2	1	2	2	3	3	1	9
	現員数 B	82	5	54	1	1	1	3	2	3	2	1	9
	欠員（B-A）	▲ 3	▲ 1	▲ 1	0	▲ 1	0	1	0	0	▲ 1	0	0
R4	定数 A	85	6	55	1	2	1	2	2	3	3	1	9
	現員数 B	84	5	54	1	2	1	3	2	3	3	1	9
	欠員（B-A）	▲ 1	▲ 1	▲ 1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
R5	定数 A	85	6	55	1	2	1	2	2	3	3	1	9
	現員数 B	83	5	54	1	2	1	2	2	3	3	1	9
	欠員（B-A）	▲ 2	▲ 1	▲ 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R6	定数 A	85	6	55	1	2	1	2	2	2	4	1	9
	現員数 B	79	5	50	1	2	1	2	2	2	4	1	9
	欠員（B-A）	▲ 6	▲ 1	▲ 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【参考（R6）】
会計年度任用職員6名（看護師4名、薬剤補助1名、事務員1名）を任用

■非常勤医師
病院の診療体制を確保するため、常勤ではなく、必要に応じて専門的な知識や技術を必要とする場合に任用する医師
なお、非常勤医師には、月額報酬を受ける者と当直や月数回の外来のために任用している日額報酬を受ける者がいる。

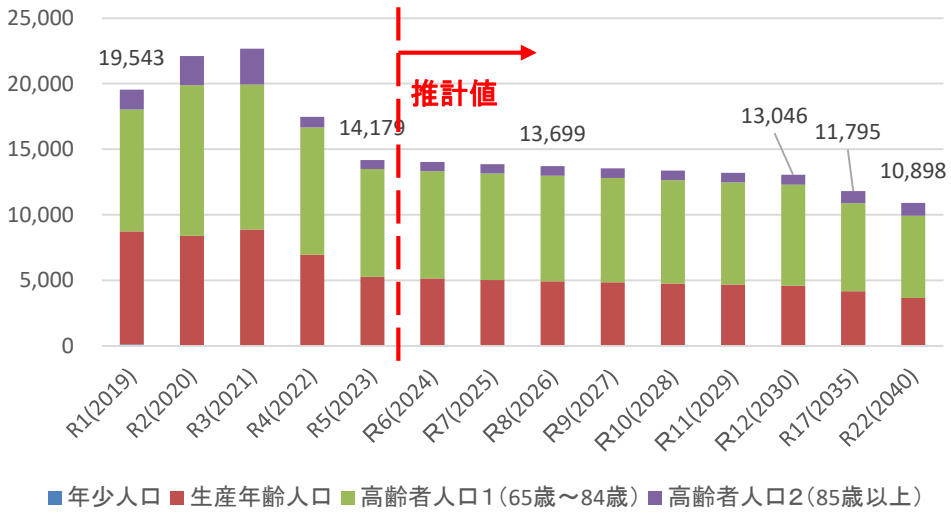
■会計年度任用職員
主に常勤職員が確保できない欠員の代替などで会計年度内において任用する職員

3　病院の現状①（患者数・病床利用率）

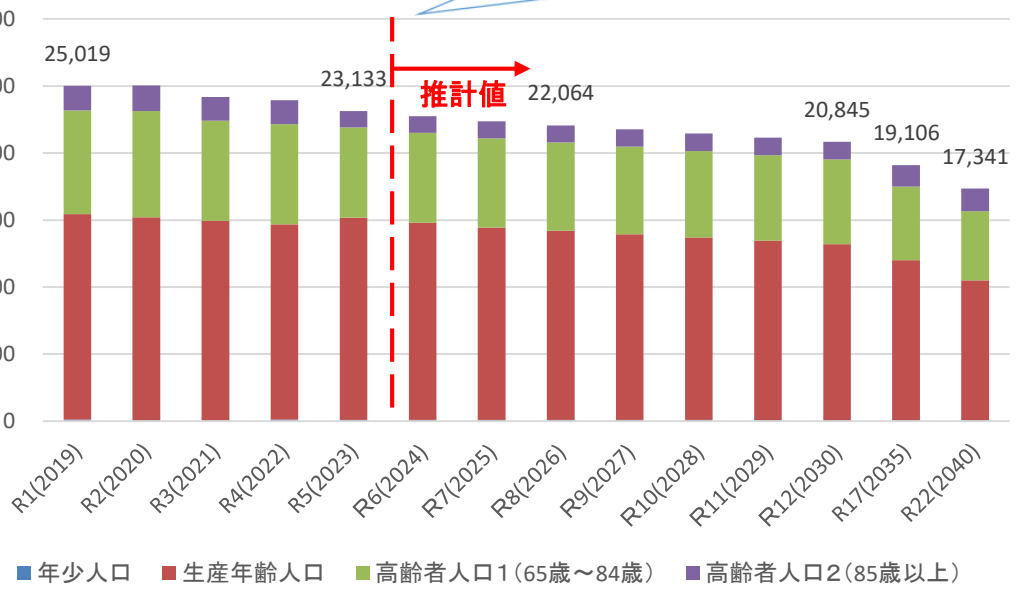
（1）　入院・外来患者数

○　入院・外来ともに患者数が減少傾向。

【入院患者数推計】



【外来患者数推計】

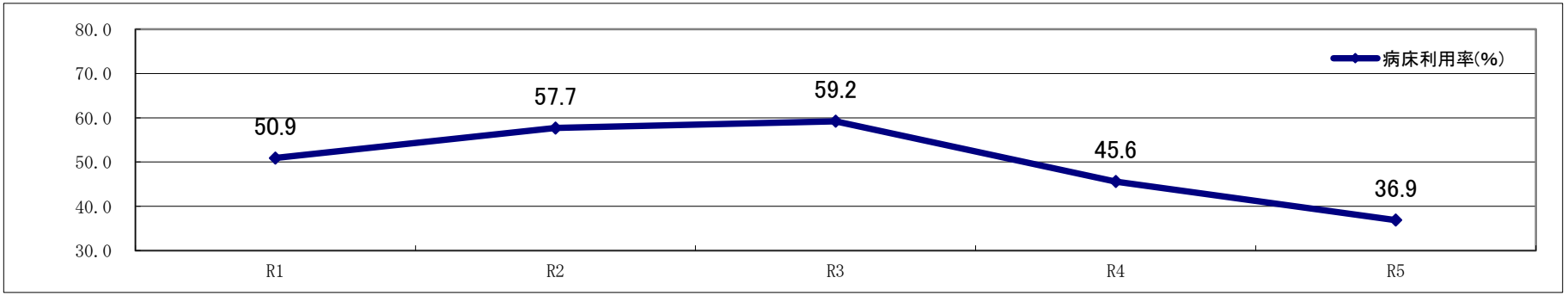


患者推計の考え方

$$\Sigma \left(\text{斜網地区の年齢階層別将来推計人口} \times \frac{\text{向陽ヶ丘病院 年齢階層別R5年度患者数}}{\text{斜網地区の年齢階層別R５年度人口}} \right)$$

（2）　病床利用率（運用病床ベース）

○　病床利用率は減少傾向にあり、令和5年度には40%を下回っている。



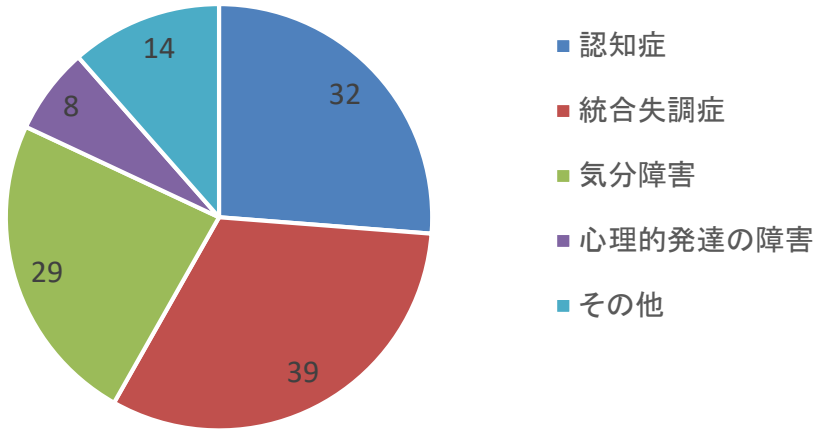
3　病院の現状②（入院患者数及び収益の状況）

（3） 患者数及び入院収益の推移

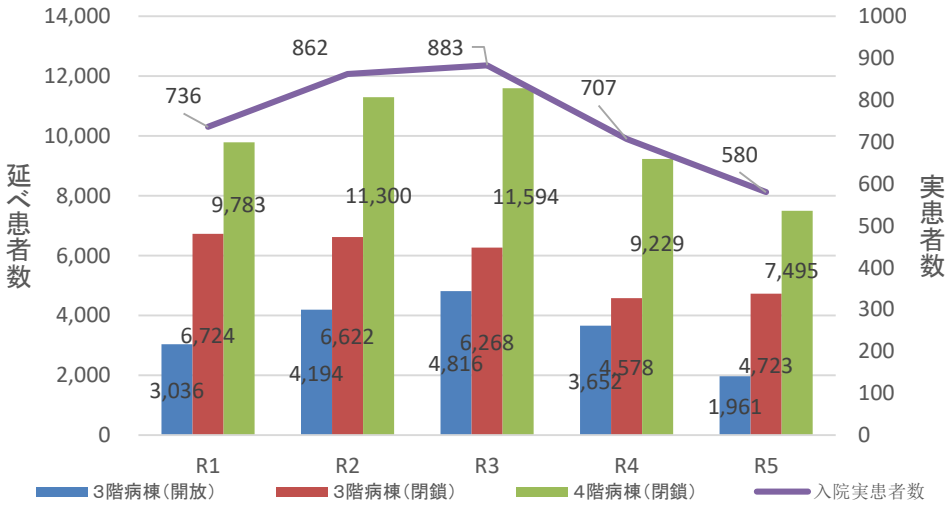
【病棟別入院患者の状況】

区分		R１	R２	R３	R４	R５
3階病棟（開放・閉鎖）	延べ患者数	9,760名	10,816名	11,084名	8,230名	6,684名
	平均在院日数	167.2日	135.0日	165.6日	116.4日	114.2日
	病床利用率	47.6%	52.9%	54.2%	40.3%	32.6%
4階病棟（閉鎖）	延べ患者数	9,783名	11,295名	11,594名	9,229名	7,495名
	平均在院日数	160.7日	140.3日	149.6日	130.9日	105.3日
	病床利用率	54.6%	63.2%	64.8%	51.6%	41.8%

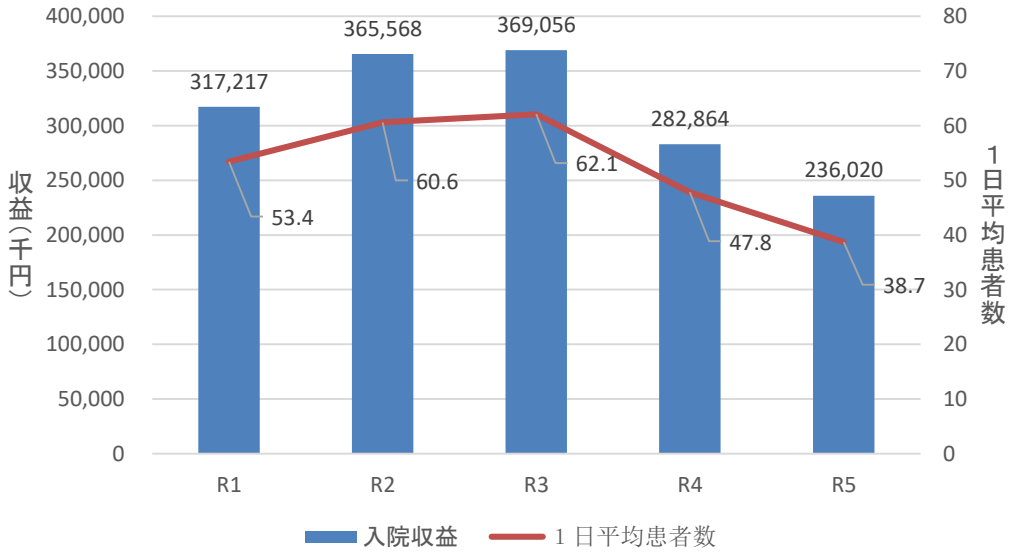
疾患別新規入院患者数（R5）



入院患者数

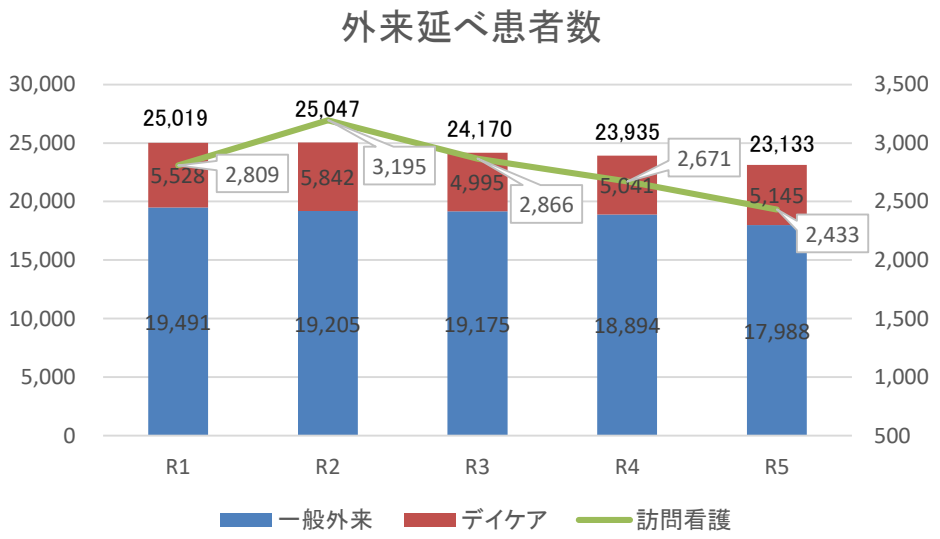


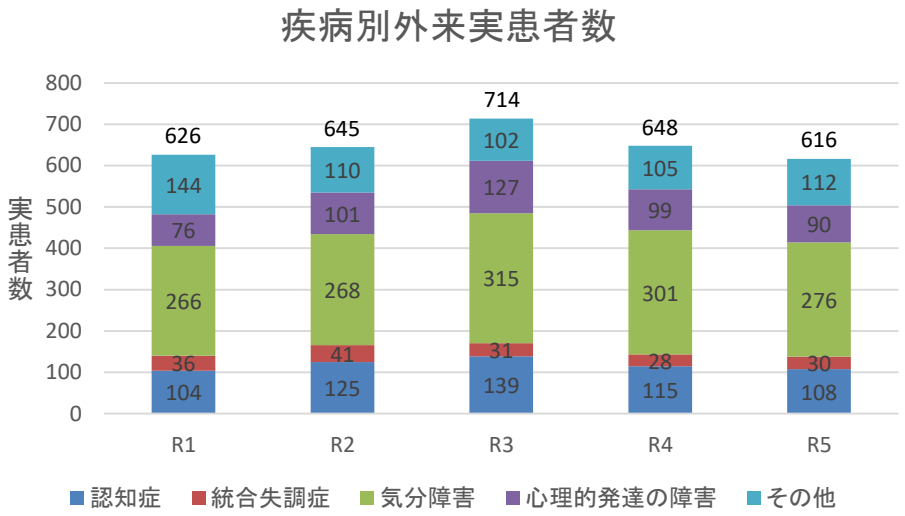
入院収益

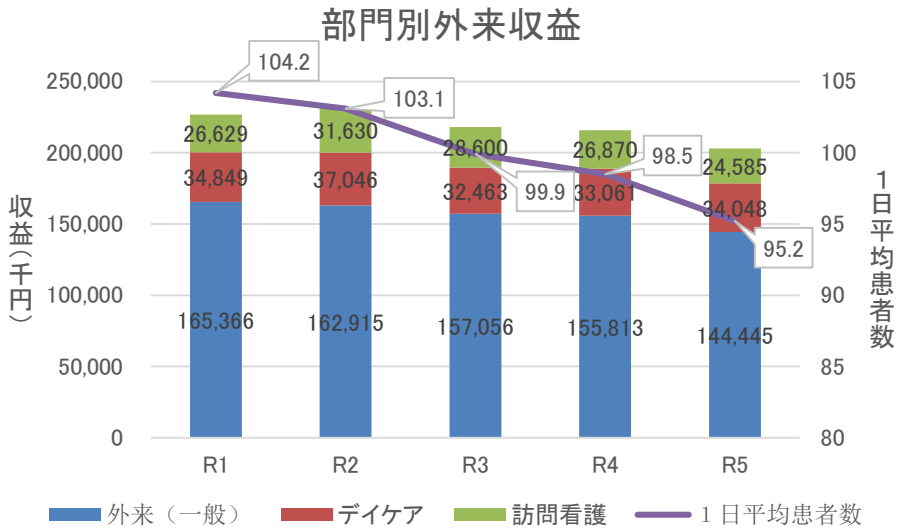


3　病院の現状③（外来患者数及び収益の状況）

（4） 患者数及び外来等収益の推移







【外来診療体制】

診療時間	診療体制	月	火	水	木	金
午前	常勤	新患・再診	新患・再診	新患・再診	新患・再診	新患・再診
午後		休診	再診	休診	再診	休診

4　病院の現状④（精神科救急医療及び認知症専門医療）

（5）精神科救急医療

○　オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点として、24時間体制で対応

【救急医療件数】

R1	R2	R3	R4	R5
9件	10件	20件	22件	23件

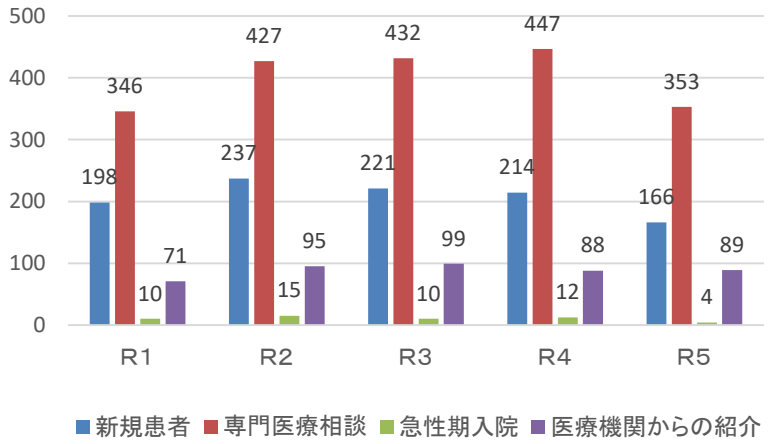
【休日・時間外外来患者延べ患者数】

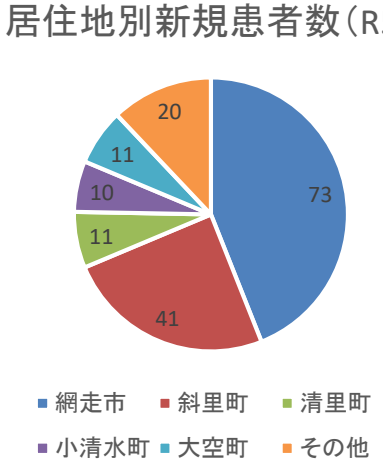
区分	R1	R2	R3	R4	R5
平日時間外	20名	20名	10名	8名	6名
休日	6名	1名	5名	6名	6名

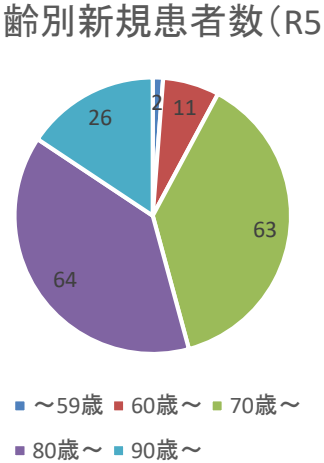
（6）認知症専門医療

○　認知症疾患医療センターを中心として認知症専門医療（もの忘れ外来）を提供しており、同センターにおける新規患者数は200名前後で推移していたが、令和5年度には大幅に減少。

【認知症疾患医療センターの患者数】







4　病院の現状⑤（児童・思春期精神科医療）

（7） 児童・思春期精神科医療

○　児童・思春期精神科医療について、平成15年11月から、圏域で唯一、緑ヶ丘病院のサテライトとして実施しているが、対象者は年々減少。

児童発達外来サテライト

【対象者】

緑ヶ丘病院を受診していて、医師が向陽ヶ丘病院への通院を認め、かつ、家族から希望があった者

【診療内容】

月1～2回、医師による診察及び心理専門職員等による家族に対する療育相談などを行う。

【患者数】

年度	H15.11～	H16	H17	H18	H19	H20	H21
延べ患者数（実患者）	不明（13名）	79名（12名）	95名（12名）	86名（13名）	62名（9名）	66名（7名）	62名（7名）
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
延べ患者数（実患者）	54名（7名）	51名（7名）	54名（7名）	54名（7名）	49名（７名）	54名（7名）	51名（7名）
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
延べ患者数（実患者）	46名（7名）	31名（6名）	29名（5名）	24名（5名）	24名（5名）	26名（４名）	0名

4　病院の現状⑥（デイケア・訪問看護）

（8）精神科デイケア・訪問看護

○　入院患者の地域移行を進める中、急性期治療後の在宅患者支援のため、精神科デイケア、訪問看護を実施しているが、訪問看護は減少傾向。

【精神科デイケア・訪問看護患者数】

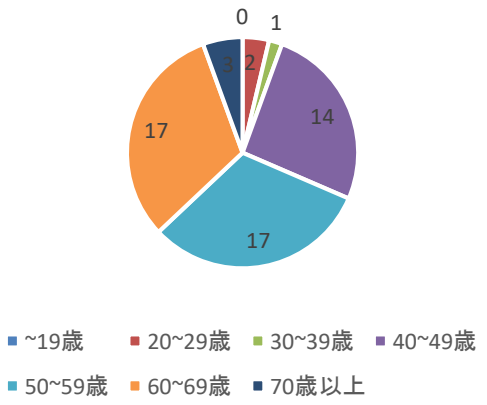
※精神科デイケア・・・大規模型（１日定員47名）

区　分	R1	R2	R3	R4	R5
精神科デイケア うちショートケア （１日平均患者数）	5,528名 1,007名 (23.0名)	5,842名 1,012名 (24.0名)	4,995名 653名 (20.6名)	5,041名 581名 (20.8名)	5,145名 487名 (21.2名)
訪問看護 （１日平均患者数）	2,809名 (11.7名)	3,195名 (13.1名)	2,866名 (11.8名)	2,671名 (11.0名)	2,433名 (10.0名)

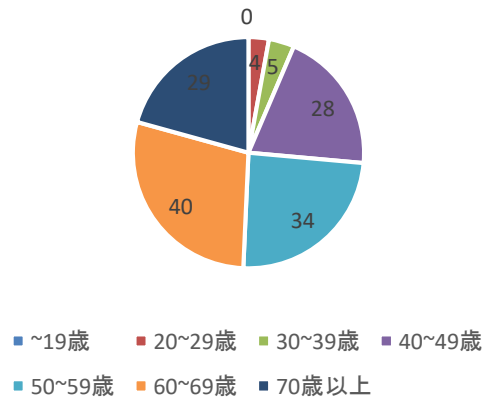
【主なデイケアプログラム】

- 余暇活動・創作系
  （ゲーム、カラオケ、読書、陶芸、絵画等）
- 運動系
  （体操、健康運動）
- 復職系
  （認知機能トレーニング）

デイケア年齢別実患者数（R5）



訪問看護年齢別実患者数（R5）



3　病院の現状⑥（地域移行）

（9）退院患者の退院先入院期間別人数及び割合

区分		1月未満	1～3月未満	3～6月未満	6月～1年未満	1～3年未満	3年以上	計
R1	自宅	14名	23名	12名	5名	1名	1名	56名
	グループホーム・施設	8名	7名	6名	5名	1名	2名	29名
	転院	11名	5名	7名	5名	2名	2名	32名
	死亡	2名	1名	1名	1名	0名	0名	5名
R2	自宅	32名	22名	15名	7名	2名	0名	78名
	グループホーム・施設	7名	10名	3名	6名	2名	0名	28名
	転院	10名	12名	4名	10名	2名	1名	39名
	死亡	0名	3名	2名	0名	1名	1名	7名
R3	自宅	35名	36名	11名	4名	1名	0名	87名
	グループホーム・施設	5名	14名	9名	4名	3名	0名	35名
	転院	4名	9名	4名	3名	1名	0名	21名
	死亡	1名	0名	1名	2名	0名	0名	4名
R4	自宅	27名	43名	8名	0名	1名	1名	80名
	グループホーム・施設	5名	14名	8名	7名	7名	2名	43名
	転院	6名	5名	4名	1名	2名	2名	20名
	死亡	1名	0名	1名	1名	1名	1名	5名
R5	自宅	26名	26名	15名	2名	0名	0名	69名
	グループホーム・施設	9名	12名	8名	3名	4名	1名	37名
	転院	9名	5名	6名	0名	2名	2名	24名
	死亡	1名	1名	2名	0名	0名	0名	4名

3　病院の現状⑦（受療動向）

○　令和5年度の精神疾患患者の受療動向によると、北網圏域では、入院・外来ともに9割以上、斜網地区（網走市、大空町・斜里町・清里町・小清水町）では、7～8割程度が地区内の医療機関を受診している。

○　市町村別では、入院・外来ともに1～2割弱が北見市の医療機関を受診しており、患者の流出が見られる。

【圏域（地区）単位での動向】

区　分		北　網 （斜網地区）	遠　紋	札　幌	上川中部	その他
入　院	北網圏域	91.8%	0.6%	3.1%	1.0%	3.5%
	斜網地区	70.3%	2.8%	14.5%	4.5%	7.9%
外　来	北網圏域	96.2%	0.5%	0.9%	0.5%	1.9%
	斜網地区	82.6%	1.9%	3.0%	1.8%	10.7%

【入院】

区分	北見市	網走市	札　幌	その他	自町村
斜網地区	13.2%	54.9%	6.3%	25.6%	39.7%
網走市	7.6%	58.3%	9.6%	24.5%	–
大空町	33.3%	50.8%	0%	0%	15.9%
斜里町	1.1%	85.2%	5.7%	0%	8.0%
清里町	37.7%	19.7%	0%	42.6%	0%
小清水町	12.0%	4.0%	0%	0%	84.0%

【外来 】

区分	北見市	網走市	札　幌	その他	自町村
斜網地区	20.3%	68.2%	0.9%	10.6%	45.0%
網走市	16.0%	76.6%	1.0%	6.4%	–
大空町	43.3%	48.9%	0.1%	5.1%	2.6%
斜里町	19.5%	65.3%	0.4%	14.2%	0.6%
清里町	12.3%	45.9%	3.3%	17.9%	20.6%
小清水町	23.4%	62.9%	0.1%	8.2%	5.4%

（令和5年度北海道国民健康保険等データ:北海道医療分析センター）

3　病院の現状⑧（各経営指標）

○　令和4年度の向陽ヶ丘病院の病床利用率等の経営指標は、総務省が公表している直近の令和4年度の全国自治体病院の類似病院の数値には至っていない。

【向陽ヶ丘病院と全国自治体病院との経営指標の比較】

経営指標（R4実績）		向陽ヶ丘病院	全国類似平均
運用病床【許可病床】		105床【105床】	―
病床利用率		45．6%	58．3%
医業収支比率		37．4%	61．1%
職員給与費対医業収益比率		160．6%	105．1%
医師1人1日当たり患者数	入院	9．3名	10．5名
	外来	12．8名	6．3名
看護部門1人1日当たり患者数	入院	0．9名	1．2名
	外来	1．2名	0．7名

※向陽ヶ丘病院及び全国類似病院の病床利用率は運用病床ベース
※医業収支比率及び給与費対医療収益比率は、損益ベース（税抜）のため、プラン収支（他会計負担金を除く税込）の数値とは異なる。
※全国類似平均は、全国自治体病院の精神科病院の平均値

（出典：地方公営企業年鑑、北海道厚生局ホームページ）

4　年間事業実績の推移

○　他会計負担金及びコロナ補助金を除いた令和5年度の収支差は、患者数の減少などにより医業収益が令和元年度と比較して106百万円減少し、▲922百万円となっている。

（単位：百万円）

区分	R1		R2		R3		R4		R5		R5-R1
	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績	実績
収　　益　　(A)	844	742	821	790	740	745	744	621	630	569	▲ 173
医　業　収　益	659	553	638	604	600	600	635	509	518	447	▲ 106
うち入院収益	386	317	365	365	357	369	382	282	292	236	▲ 81
うち外来収益	264	226	262	231	232	218	240	215	215	203	▲ 23
医　業　外　収　益	182	180	180	178	134	135	108	111	108	120	▲ 60
特　別　利　益	3	8	3	8	6	10	0	1	4	1	▲ 7
費　　用　　(B)	1,693	1,663	1,678	1,635	1,701	1,667	1,544	1,466	1,583	1,491	▲ 172
収　支　差　(C=A-B)	▲ 849	▲ 921	▲ 857	▲ 845	▲ 961	▲ 922	▲ 800	▲ 845	▲ 953	▲ 922	▲ 1

※医業外収益は、他会計負担金及びコロナ補助金を除いた数値

５　向陽ヶ丘病院の経営上の課題と方向性（案）

課　　題

【地域のニーズに応じた医療提供体制の構築】
○　入院・外来ともに患者数減少傾向にあり、今後も人口減少に伴う患者減少や高齢化が見込まれることから、地域の医療ニーズに応じた医療提供体制の構築が必要。
【医師をはじめとした医療従事者の確保】
○　医育大学と連携しながら医師の派遣を受けているが、常勤医の減もあり、引き続き、安定した医師確保が必要。

病院の方向性

【地域のニーズに応じた医療提供体制の構築】
○　オホーツク第三次医療圏における精神科救急医療の拠点として、引き続き、他の医療機関と連携・分担しながら、精神科救急医療を担うとともに、認知症疾患医療センターを中心とした認知症専門医療の機能を担う。
○　児童・思春期精神科医療について、引き続き、緑ヶ丘病院からの紹介患者を受け入れながら、地域に求められる医療を提供していく。
○　「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築に貢献するため、精神科救急のほか、精神科デイケアや訪問看護など、外来・在宅精神科医療の提供体制を維持していく。
○　将来の患者数等も踏まえつつ、必要な病床数や診療体制を検討する。
【医師をはじめとした医療従事者の確保】
○　医育大学や地域の医療機関と連携を密にしながら、引き続き、医師の派遣を受け、必要な診療体制を構築していく。

6　病院の今後の方向性（イメージ）

区分

病院の役割・機能の最適化

地域連携

医療従事者の確保

検討のポイント

地域移行の推進

地域医療構想への精神医療の位置付け

ICTの活用

20歳未満の精神疾患患者の増加

保健・福祉との連携

持続的な医師確保

身体合併症への対応

対応の方向

①精神科救急・認知症専門医療の継続

②児童・思春期精神科医療の継続

③病床数及び職員配置の適正化

④オンライン診療の導入

⑤関係機関との顔の見える関係づくり

⑥医育大学や地域の医療機関との連携

7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【病院の役割・機能の最適化①】

①　精神科救急・認知症専門医療の継続

具体的な対応

○　精神科救急医療体制における救急輪番病院と認知症疾患医療センターの継続
○　認知症疾患医療センターとして若年性認知症支援コーディネーター養成研修の受講

留意事項

○　認知症高齢者は斜網地区ではR12に患者ピークの見込み
○　北網第二次医療圏の若年性認知症コーディネーターは1名のみ（北見赤十字病院）

○　北網第二次医療圏の救急輪番病院及び認知症疾患医療センターは、向陽ヶ丘病院と北見赤十字病院のみ（斜網地区では向陽ヶ丘病院のみ）

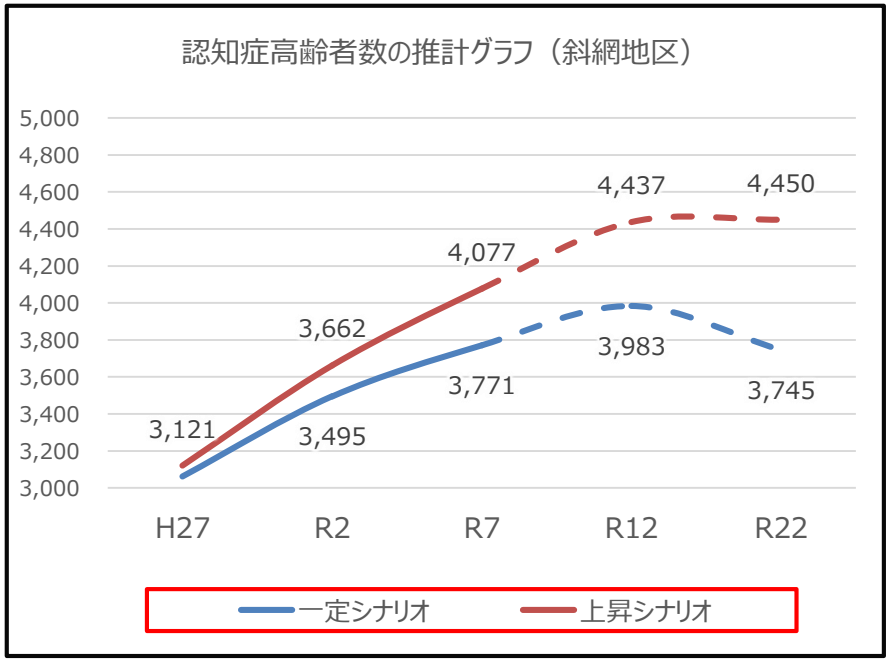
【輪番時救急医療件数】　　向陽：北見日赤＝３：２

病　院　名	R1	R2	R3	R4	R5
向陽ヶ丘病院	9件	10件	20件	22件	23件
北見赤十字病院	53件	58件	45件	66件	61件
合　計	62件	68件	65件	88件	84件

【若年性認知症】

［出典］若年性認知症実態調査（R2.3）

○18-64歳人口における人口10万人当たり若年性認知症者数（有病率）は50.9人（前回調査H21.3　47.6人）
○本道の人口（R6.1.1：15-64歳）で推計すると、本道における若年性認知症患者数は1,480人（斜網地区は16.2人）
※向陽ヶ丘病院初診外来患者：若年性認知症患者１名（R5実績）



［出典］「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）により推計

7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【病院の役割・機能の最適化②】

②　児童・思春期精神科医療の継続

具体的な対応

○　15歳未満の患者への診療は、通常の外来で継続
○　その他、緑ヶ丘病院に受診している患者のうち、向陽ヶ丘病院への通院を希望する患者を受入れ

留意事項

○　開始当初から児童精神の専門医は不在
○　対象患者は年々減少
○　全国的には20歳未満の精神疾患患者は年々増加

○　オホーツク第三次医療圏から月50～60名、うち斜網地区から30名程（R5実患者）緑ヶ丘病院受診
○　令和6年10月から、成人患者も含め、緑ヶ丘病院内に案内を掲示し紹介を開始したが、現時点で実績は無し
○　緑ヶ丘病院からのアクセスが悪く、専門医派遣も困難であるため、医育大学等と連携の上、専門医の確保を検討

【向陽ヶ丘病院】

外来患者数	R1	R2	R3	R4	R5
延べ患者数（15歳未満）	109名	66名	30名	104名	93名
児童発達外来サテライト延べ患者数	29名	24名	24名	26名	0名

※　対象患者が15歳以上になっていること、家族への療育相談が主になったことから、令和4年度までの患者については、児童発達サテライトでの受診取扱いは終了。

【（参考）緑ヶ丘病院】

外来患者数	R1	R2	R3	R4	R5
児童思春期外来延べ患者数	5,170名	5,176名	5,872名	5,532名	5,749名

7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【病院の役割・機能の最適化③】

③　病床数の適正化及び職員の適正配置

具体的な対応

○　医療需要に応じた適正な病床数や職員配置体制について検討

留意事項

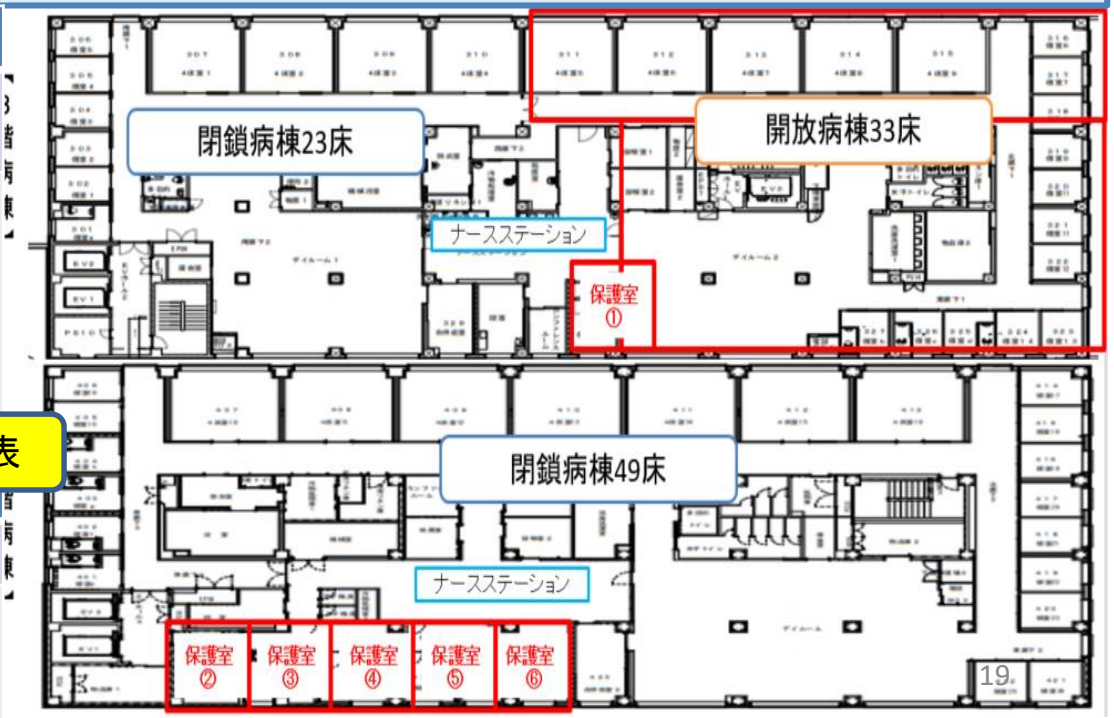
○　1病棟化を検討する場合、病棟構造や看護師等の負担を踏まえた検討が必要。
○　1病棟化による必要な保護室数（保護室増設）の検討が必要。

○　1病棟化し、4階の保護室も含めて使用した場合、4階への移動の動線が長い。
○　4階病棟の1病棟体制とした場合は、ナースステーションで区切られていないため、急性期と慢性期患者が混在し、患者間トラブルの懸念

現　行	
病床数	許可105床　運用105床 （病床利用率 R5:36.9% R6上期：32.2%）
病棟構成	2病棟体制 3階病棟【開放33床・閉鎖23床】 **認知症、身体合併症、回復期統合失調症等** 4階病棟【閉鎖49床】 **急性期統合失調症等**

※資料では青字部分非公表

再編後	
病床数	※病床数削減　許可105床　運用58床
病棟構成	1病棟体制　3階病棟【開放33・閉鎖23】 →閉鎖58（保護室2室増設） 4階病棟　休床



7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【病院の役割・機能の最適化④】

④ オンライン診療の導入

具体的な対応

○ 医療MaaS【網走市移動型医療サービス事業】の活用
○ 網走市内の障害者支援施設からの通院患者を対象に開始

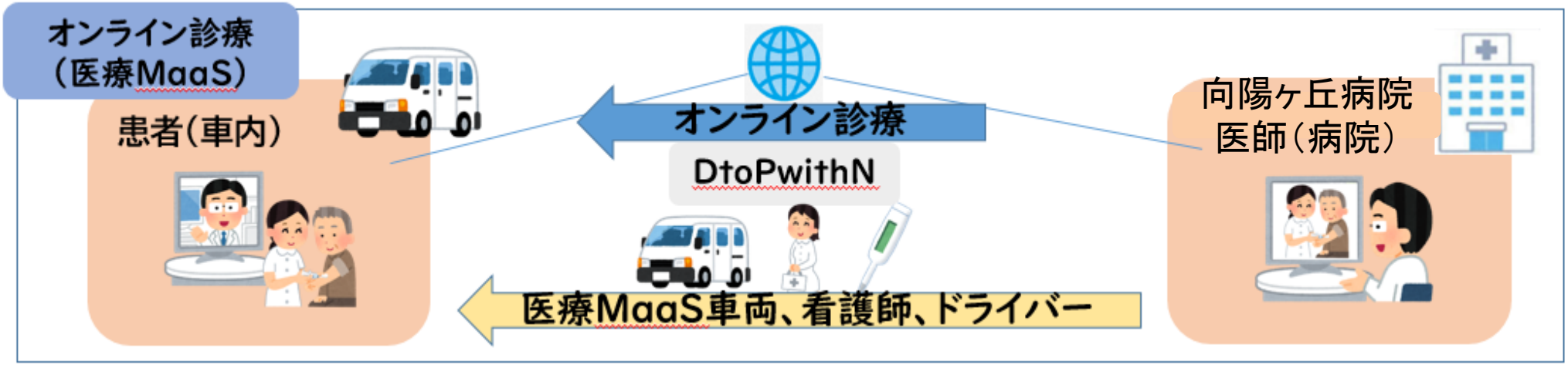
留意事項

○ 現在、市事業は実証運行段階で、今後本格運用予定

○ まずは向陽ヶ丘病院の外来看護師と網走市の看護師が同行し、順次、市の看護師のみの体制に移行。
○ 処方箋は個人情報であることを考慮しながら検討が必要。

【網走市移動型医療サービス事業】

医療MaaS専用車両に網走市の看護師が同乗し、通院困難な高齢者等の自宅を訪問し、病院の医師とオンライン診療を行う。



患者や付き添い家族の
通院負担を軽減

医師の移動負担を軽減

7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【地域連携】

⑤　関係機関との連携強化

具体的な対応

○　病院主催による研修会等の開催を通じた関係機関との顔の見える関係づくり

留意事項

○　保健所や相談支援事業所との連携強化による患者支援が重要

○　R5から実施している網走保健所、地域生活支援センターと共催で「地域と精神科医療の多職種連携研修交流会」を実施（向陽ヶ丘病院、行政担当職員、（各市町障害福祉部門・保健部門、保健所）、相談支援事業所等が参加）するほか、患者確保に向けた向陽ヶ丘病院が主体となった取組を検討。

地域と精神科医療の多職種連携研修交流会

～包括的支援マネジメントの充実に向けて～

＜目的＞

多職種協働による包括的支援マネジメントの充実により、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進を図る。

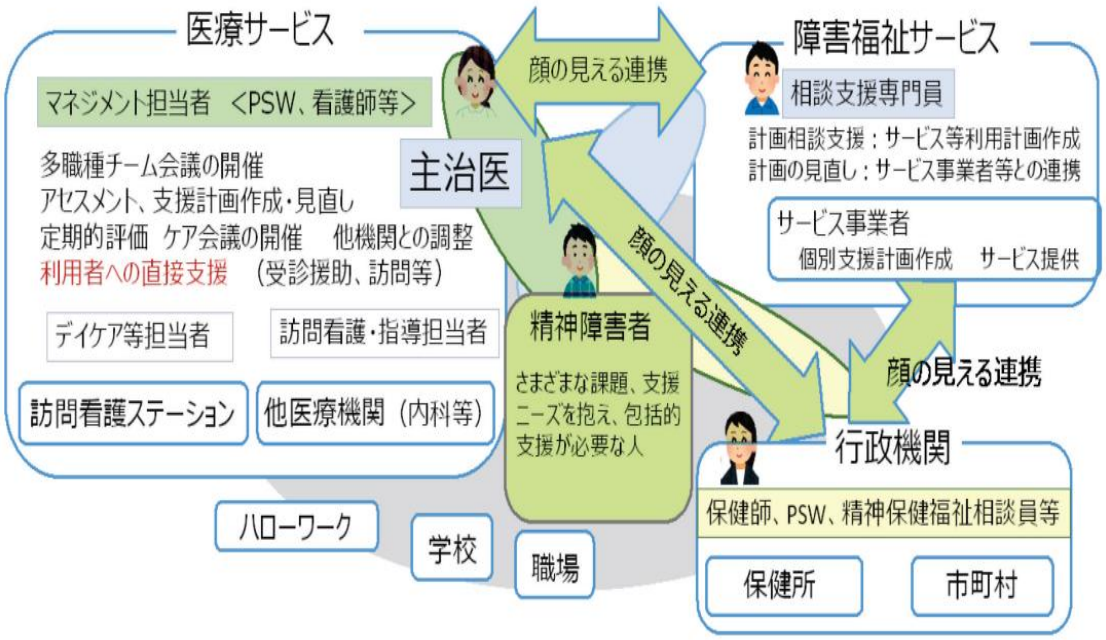
＜開催実績（参加人数）＞

R5．11．10　（55名）／　R6．11．1（51名）

＜内容＞

講演、グループによる事例検討、グループ交流会　等

図表６：包括的支援マネジメントによる連携構築のイメージ



（出典：精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き（2020年度版））

7　病院の今後の方向性（具体的検討案）【医療従事者の確保】

⑥　医育大学や地域の医療機関との連携による医師確保

具体的な対応

○　引き続き、医育大学と連携し、医師派遣による安定した診療体制の確保
○　患者の高齢化に伴う身体疾患の診療を行う地域の医療機関との連携

留意事項

○　現体制（医師5名（精神保健指定医3名））
（R7　医師3名（精神保健指定医2名））
○　月1回網走厚生病院に内科医を非常勤医師として任用

○　今後の人口減少に伴う医療需要や外来における新規患者の待機なども踏まえ、診療体制の検討が必要。
○　現在、網走厚生病院の精神疾患合併症の患者対応と向陽ヶ丘病院の身体合併症患者への対応のため互いに医師派遣を実施していることから、引き続き相互の医師派遣を継続。
○　児童・思春期精神科医療の実施のため、専門医の確保を検討。（再掲）

【常勤医師配置状況】※年度当初の状況

R1	R2	R3	R4	R5	R6
5名	5名	5名	5名	5名	5名

【うち、精神保健指定医】

R1	R2	R3	R4	R5	R6
3名	2名	2名	2名	2名	3名

【他院への転院状況】

※身体合併症等で精神疾患以外の疾病で転院した件数

R1	R2	R3	R4	R5
30件	39件	21件	20件	24件
（主な転院先）網走厚生病院、網走中央病院、網走記念病院				

8　病院の今後の方向性（まとめ）

区分	対応の方向性	具体的な対応（案）	留意事項
病院の役割・機能の最適化	①精神科救急と認知症専門医療の継続	○　精神科救急医療体制における救急輪番病院と認知症疾患医療センターの継続 ○　認知症疾患医療センターとして若年性認知症支援コーディネーター養成研修の受講	○　認知症高齢者は斜網地区ではR12に患者ピーク ○　北網第二次医療圏の若年性認知症コーディネーターは1名のみ（北見赤十字病院）
	②児童・思春期精神科医療の継続	○　児童発達外来サテライトは、緑ヶ丘病院に受診している患者のうち、向陽ヶ丘病院への通院を希望する患者を受入れ ○　緑ヶ丘病院内に案内を掲示し、周知	○　開始当初から児童精神の専門医は不在 ○　対象患者は年々減少 ○　全国的には20歳未満の精神疾患患者は年々増加
	③病床数の適正化及び職員の適正配置	○　医療需要に応じた適正な病床数や診療体制について検討 ○　改修（保護室増設）の必要性も視野に検討	○　必要な保護室の数 ○　看護職員等の負担軽減等 ○　異なる状態像（急性期・慢性期）患者への配慮
	④オンライン診療の導入	○　医療MaaS【網走市移動型医療サービス事業】の活用（DtoPwithN） ○　網走市内の障害者支援施設からの通院患者を対象に開始	○　現在、市事業は実証運行段階で、今後本格運用予定
地域連携	⑤関係機関との連携強化	○　病院主催による研修会等の開催を通じた関係機関との顔の見える関係づくり	○　保健所や相談支援事業所との連携強化による患者支援が重要
医療従事者の確保	⑥医育大学や地域の医療機関との連携	○　引き続き、医育大学と連携し、医師派遣による安定した診療体制の確保 ○　患者の高齢化に伴う身体疾患の診療を行う地域の医療機関との連携	○　現体制（医師5名（精神保健指定医3名） ○　月1回網走厚生病院に内科医を非常勤医師として任用